

● 行けなかったアナタも行った気になる

TOKYO MOTOR SHOW 2000
COMMERCIAL VEHICLES

注目車ダイジェスト



「つまらなそうだから」期間が短くて都合がつかなかった」なんて理由でモーターショーへ行かなかったアナタ。商用車ショーとはいえ、予想以上に見るべきモノが多かっただけに、惜しいことをしたかもネ。そんなアナタのために、注目車種を一挙に並べてみた。さっそく幕張メッセでのモーターショーにプレイバック!



ダイハツ アトレハイブリッド

プリウスと同じニッケル水素バッテリーを採用したハイブリッドカー。モーターとバッテリーを追加搭載することで車重が約40kg増加しているが、燃費は約30%向上する見込みだ。現状で市販すると200万円前後になるとのことだが、完成度の高さから見て市販される日も近い!

●全長×全幅×全高=3395mm×1475mm×1830mm
●搭載エンジン=660cc直3+モーター



ついに姿を現したルノー車ベースのOEMモデル。さすがにヨーロッパ製だけあってボディサイズは大きい。荷室の広さもハンパじゃない。「反響次第で販売も検討します」とは言いながらも、ホイールキャップやステアリングホイールには日産マークがすでに装着されていた。もう市販化が決定してたりして...

●全長×全幅×全高=4888mm×1990mm×2489mm

ホンダ アクティ プロトタイプ

スクープ済みのアクティMCモデルがプロトタイプとして登場。荷台が70mm延長された一方で、フロントノーズは衝突安全性を保ちながら30mm短くなった。なお、スクープ班の調べでは12月デビューが濃厚だ。



●全長×全幅×全高=3395mm×1475mm×1745mm
●搭載エンジン=660cc直3

アトレ-7をベースにサードシートを取り除き、5人乗り商用モデルに仕立てた参考出品車。660ccの軽商用車では実現できない1400kg積載が可能で、ダイハツが他社に先がけて実用化したキーフリーシステムや1.3 DVVTエンジンも採用。市販化を望むユーザーも多いのでは?



●全長×全幅×全高=3765mm×1515mm×1895mm
●搭載エンジン=1.3 直4

スバル・サンバー 「緑のトラック」



天然木材で作られたダンプ荷台がオシャレなサンバーの特装モデル。ガーデニングショップや観光農園で使ったら看板娘ならぬ「看板トラック」になりそう。

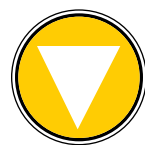
スズキ・エブリイ ワゴンSV

次のMCで登場しそうなほど完成度が高かったのがエブリイワゴンのドレスアップモデルだ。専用バンパーやリアスポイラーに加え、左スライドドアには電動サイドステップも新アイテムとして採用されていた。



本誌でおなじみのエスクード・ストレッチ版が北米に続き、国内でも披露された。ただし、今回の商用車ショーに合わせ、出品されたのは2列シートの5人乗りモデルだった。

●全長×全幅×全高=4575mm×1780mm×1740mm
●搭載エンジン=2.5 V6



明日からでも販売できそうな 完成度の高いクルマたち

ネームプレートには「参考出品車」の文字が踊っていないながらも、すぐにも買えそうなほど完成度の高いクルマがいくつも見られた。すでに市販が決定しているものもあれば、ショー会場で反響を受けて市販化にGOサインが出されたクルマもあるはず。店頭で見て触れて、実際に買える日がやってくるのが楽しみだね。

●短信● ストレートジャンプ&クォーターパイプ競技大会と音楽ライブがセットになった「X-TRAIL JAM in TOKYO DOME」が2001年2月3~4日に東京ドームで開催される。

“商用車ショー”はやっぱりおもしろくなかったか？

スズキ グランドピタラ ピックアップ

エスクードのホイールベースを延長し、ダブルキャブのピックアップに仕立てられたコンセプトカーが初出品された。1:2ドアや18インチホイール、レッド&ブラックのツートン内装が迫る雰囲気をかもし出していた。



- 全長×全幅×全高=5030mm×1780mm×1685mm
- 搭載エンジン=2 直4



- 全長×全幅×全高=3395mm×1475mm×1550mm
- 搭載エンジン=660cc直3



多様にアレンジ可能なフロントシートと、上下に開閉するバックパネルにより、さまざまなレジャーシーンで活躍してくれそうなネイキッドのピックアップ・モデル。フロントマスクも専用デザインに変わっていたが、もしかしてこれがMCで採用されるデザイン案なのかな？



- 全長×全幅×全高=3600mm×1475mm×1775mm
- 搭載エンジン=660cc直3ターボ



レジャーユースと商用ユースの両方で使えるスポーツトラック。跳ね上げ式カーゴハッチや観音開きドア、トランクスルー機構を備えたリアシートなど、使い勝手のよさとワルな雰囲気が注目のマトとなった。99年のモーターショーに参考出品されたトヨタ・オープンデッキとコンセプトが似てる。



平日の商用ユースだけじゃもったいないクルマたち

今回のモーターショーは「商用車ショー」との名目が掲げられていたため、ビジネスユースに重点を置いた出品車が多かった。しかし、それだけでは地味にうつまうためか、休日にはフィールドへ出かけよう！といったノリでRVチックに仕立てられたコンセプトカーも登場した。



デビューしたばかりの新型車たち

コンセプトカーを見るのも大きな目的だけど、通常ディーラーで見られないクルマや登場後まもない新型車をいち早くチェックできるのもモーターショーの特徴だ。運転席に座ろうと、大型トラックなどは行列待ちになっているものもあった。



メルセデスベンツ ウニモグ

26年ぶりに一新され、日本国内でも11月1日から販売が始まった多目的作業車。ステアリングホイールとペダル類が左右に移動し、作業環境に応じて左ハンドルと右ハンドルに切り替えられる「パリオパイロット」システムがユニークだ。

- 全長×全幅×全高=5100mm×2150mm×2830mm
- 搭載エンジン=4.2 直4ディーゼルトーボ



インドネシアで人気が高いアジアンカー。3列シートや高い走破性など、日本国内にはない環境に合わせて開発された海外生産車だ。見かけよりもボディサイズが大きい。

- 全長×全幅×全高=4750mm×1770mm×1830mm
- 搭載エンジン=2.5 直4ディーゼルトーボ



市販モデルが発表されたものの、発売前とあって見入っている来場者が多かった。ショー会場ではトップグレードの3 V6「GL-X」が2台展示されていた。

- 全長×全幅×全高=4395mm×1825mm×1760mm
- 搭載エンジン=3 V6



本誌発売直前の11月24日に国内発売されたハリアー派生車。トヨタ・ブースの目玉出品車としてショー会場で注目を集めていた。

- 全長×全幅×全高=4685mm×1825mm×1720mm
- 搭載エンジン=3 V6

福祉車両として再登場したコンセプトカー×2

「去年のモーターショーに出たクルマでしょ？」と思うなかれ。今回、商用車とともに出展されたのが福祉車両だ。高齢化社会を目前に控え、各社とも力を入れている分野だけに、99年のショーに出品されたコンセプトカーを福祉車両にモディファイし直して出品しているケースも見られた。



スズキPu3通勤ター

助手席がビルトイン式車いすに改造され、「Pu3」が福祉車両として再出品された。チャイルドシート仕様にもコンバートでき、専用ベビーカーを組み込むことも可能。ランフラットタイヤや3タイプのパワーユニット(ガソリンエンジン、ハイブリッド仕様、電気モーター仕様)は99年の出品車と同じだ。

- 全長×全幅×全高=2675mm×1475mm×1450mm
- 搭載エンジン=660cc直3



99年の東京モーターショーに参考出品されたコンセプトカー版エスティマ・ハイブリッド4WDの福祉車両モデル。そのまま電動車いすにもなる「おでかけ機能付サイドリフトアップシート」は走行中に充電される仕掛けになっており、近未来の福祉車両像を提示していた。

- 全長×全幅×全高=4850mm×1800mm×1780mm
- 搭載エンジン=2.4 直4+モーター